# 令和５年度第１回向日市歴史的風致維持向上協議会　議事要点録

○　日　時　　令和６年３月２２日（金）午前１０時３０分から正午まで
○　場　所　　永守重信市民会館　第１会議室
○　出席者
（委員）高木会長、神吉副会長、杉本委員、木村委員、稲本委員、六人部委員、橋田委員、八木委員、水上委員、福岡委員
（ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ）近畿地方整備局建政部計画管理課　河野課長（代理）
京都府総合政策環境部地域政策室　池松参事
（事務局・説明員等）
環境産業部　林部長
産業振興課　尾田課長、山中主席係長、小川主任
建設部　都市計画課　上出課長
教育部　教育総務課　山本課長、渡辺担当課長、文化資料館　玉城館長
○　その他出席者
傍聴者　１名
○　会議概要
１　部長あいさつ
２　議事内容
（１）向日市歴史的風致維持向上計画　令和５年度進行管理・評価シートについて
国に提出する予定の進行管理及び評価に係る資料に基づき、事務局から令和５年度実施事業の進捗等について説明を行った。
（２）令和６年度実施予定事業の主なものについて
令和６年度実施予定事業の主なものについて事務局から説明を行った。
（３）その他
向日市歴史的風致維持向上計画は令和６年度をもって終了する旨、事務局から報告を行った。

【意見の要旨】
（１）向日市歴史的風致維持向上計画　令和５年度進行管理・評価シートについて
会　長：　令和５年度進行管理シートについて、意見を交わしていきたい。
向日市歴史的風致維持向上計画には６つの歴史的風致が定められている。
計画策定から９年が経ち、この間、市の状況も変化してきており、歴史的風致でもある条里制水田や用水路などが姿を変えつつある。
今後も開発が進む中、これらの歴史的風致をどのように考えるか、向き合っていかなければならない。
委　員：　宇治市の景観計画に関わっているが、地区まちづくり協議会の役割が一般市街

地において特徴的で、なかにはきめ細かく地区の自主でルールを作っている地区もある。

向日市の開発地域でも住民主導のまちづくり協議会が立ち上がったが、これは意義あることで、行政としても計画策定上、サポートしやすくなるのではないか。

向日市の歴史的風致のためには、住民主導の協議会が今後も増えるとよいので、保存活用に向け、住民が動き易い環境を作っていくことが重要である。

歴まちの良いところは幅広く歴史や文化をカバーできることで、歴まちに絡めて農地の利活用、特に用水路に関しては大雨対策とも密接な関係にあり、その辺りも進めていってもらいたい。

委　員：　文化財の価値は変わりつつあり、重層性、価値の多様性が認められてきた。

これまでの文化財は復元を基本として整備が進められてきたが、それも変わりつつある。

寺戸大塚古墳の将来のパースでは復元がイメージされているが、古墳時代への復元だけにとらわれず、これまでの歴史の重層性、今に引き継がれてきている歴史や文化も踏まえた形で保存活用を考えていくことが重要である。

委　員：　向日神社は良い例。

地域の憩いの場であると同時に、長い歴史を有している。

人々の暮らしと歴史が密接な関係であることがとても分かりやすい。

旧上田家住宅のように建物と土地で異なる歴史が重なる施設も非常に珍しい。

観光のためではなく、市民のための景観整備として進められているところも評価されるべきポイント。

委　員：　向日神社には門がなく、いつでも誰でも訪れていただける。

地域の方はもちろん、最近は市外や海外から来られる方も増えてきた。

歴まち事業として休憩所や手洗いも整備していただいた。

向日市の歴史の一端を担う立場として誇りに思うとともに、重い責任があると考えている。

委　員：　洛西口西地区、森本東部のまちづくりだいぶ進んできているが、鶏冠井地区、上植野東部地区でもテーマ型のまちづくり計画が動き始めている。

すでに地権者へのアンケートを行い、意向調査は完了した。

今後、具体的なまちづくりの内容について協議していくことになる。

歴まち計画の成果の一つとして鶏冠井・上植野東部地区のまちづくり計画も含めていただければと思う。

会　長：　向日市は非常に小さなまちだが、多くの歴史が重なっているのが特色。

京都市や奈良のように特定の時代（古代）を取り上げるのではなく、幅広い歴史を取り上げ、まち全体で歴史の変化を感じられるところが良い。

委　員：　市のほぼ全域が歴まち計画の重点区域に設定されていることは全国的にも非常に珍しく、評価においての強みになると考える。

会　長：　まさに市全体が「丸ごと歴まち」と言える。

（２）令和６年度実施予定事業の主なものについて

委　員：　毎年、継続的に竹の径の整備を進められているが、隣接する京都市洛西竹林公園やこどもの広場との連携はあるのか。

事務局：　市として竹の径を紹介する際、竹林公園も併せて紹介している。

また、進行管理・評価シートの中でも説明させていただいたが、現在、向日市をはじめとする乙訓２市１町と京都市西京区（洛西・大原野）で「京都西山　竹の里乙訓」として連携しながらブランディングを進めており、御朱印巡りやフォトコンテストなど様々な連携事業を展開している。

さらに、向日市観光協会が実施されている「竹の径・かぐやの夕べ」では、同時開催として、この辺りのエリアのシンボルである「竹」をテーマにしたイベント「竹結びフェスタ」を実施している。

委　員：　昨年の大極殿祭では古代衣裳を着用した子どもたちによる長岡京遷都物語の朗読が実施された。

この９年間で市民の間にも向日市の歴史が浸透してきたと実感している。

今後、本市の特産であり、伝統でもある竹、竹産業をさらに知ってもらえるよう取り組んでもらいたい。

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：　次年度で計画は終了となっている。

計画の名称にもあるが、歴史的風致の「維持」についての具体的な仕掛けや取組はあるのか。

その点を意識することで計画終了後も意義のあるものになってくると考える。

事務局：　文化財保護という面では、計画策定後、公有率が増加したことは数的に評価していただけるかと思う。

ソフト面では、保存活用計画を策定することで、今後の道筋をつけることができた。

先ほど委員からもご意見いただいたが、文化財単独ではなく、歴まち計画を踏まえ、今の暮らしとともにある形での活用を考えていきたい。

事務局：　資料館は間もなく４０周年を迎える。

歴まち計画認定後、資料館に来られる方も変わりつつあり、歴史好きの方だけ

でなく、まちづくりに興味がある方も来られるようになった。
広く全市民に認知されてきたと実感している。

（3）その他

委　員：　計画終了に向け、来年度どのように、まとめていくか。
向日市はこれまで実験的な取組をされてきた。
先ほど述べた全市的な歴史機運の向上というのは大きな成果であり、加えて、見た目では見えないものの価値を認識できたということも評価されるべき。
また、企画を進める際、安易に外注せずに行政や地域、市民が自ら手足を使って作り上げるというのは「向日市方式」として評価されるべき。

会　長：　これまでの向日市の歴まち事業を踏まえ、向日市らしいまとめ方ができれば良いと考えている。
「歴まち事業」を持続させるためにも、有識者・地域・行政の多様な意見を交わせる場があればよいと考える。
考察に必要なデータの整理が必要。
各委員には最終評価に当たって、また色々とアイデアを出していただきたい。